

太秋

柿

販売期間

10月上旬

11月上旬

果実重400g程度と大振りな甘柿『太秋』。甘柿の富有と、次郎、晩御所、花御所の掛け合わせで誕生した新しい品種です。新鮮な食感の肉質、高い糖度とともに、これまでにない柿として注目を集めています。「熊本県果樹研究会」の米原良博柿部部長がその魅力を披露します。



柿のイメージを一新する食感と甘さ

「シャリツとした食感」

平成17年産から本格的な出荷が始まった『くまもと太秋』。販売期間は10月上旬から11月上旬で、出荷量は平成19年産で約200t。しかし、同品種としては国内トップの出荷量を誇り、他県産の追従を許していません。

平均糖度は16〜18度と高く、玉が太る際に果皮に「条紋」が発生する場合があります。また、富有の1.5倍という大玉で、400gという果実重、梨に似たシャリツとした食感、果汁の多さも特性に挙げられます。露地栽培を基本に、樹勢を見極めながら摘蕾、摘果を続け、1玉ずつ袋掛けをして、手間を掛けながら育てています。

タネが少なく、際立つ食味の良さで市場からの評価も高く、贈答品としての人気も高まっている品種です。

